

◇方角という観点での能登

〔東・日青〕 命の源とでも言うべき太陽が東から登り、西に沈むことから、日本では昔から方角を重要視してきました。中国から入ってきた考えでは、日本列島は日の出する、日本（ひのもと）であり、蓬莱、常世（とこよ）国に通じ、季節では春、色で表す考えでは青にあたります。いわば理想郷からの人口と考えられてきました。仏教では薬師如来の浄瑠璃光浄土が東方の浄土とされています。薬師仏を讃える芸能の浄瑠璃は、薬師の本願数に従って十二段で構成されています。先に述べたように、能登は早くから熊野、四国と並ぶ重要な修行の地であり、多くの薬師仏が安置されてきました。

〔西・月白〕

西はもちろん極楽浄土の方角です。夕日の綺麗な世界が極楽浄土を想像させると共に、強いて言えば、東の日に対し、西の月にあたるでしょう。色としては白です。月は私達の生活に密接に関わっていました。ここで六斎日（ろくさいにち）についてお話しします。六斎日は、古く天武期（七世紀）に伝わったもので、月の満ち欠けを基準とした八、十四、十五、二十三、二十九、三十日の六日です。これらの日は、諸仏の縁日となるとともに、市日（六斎市）や輪島の三夜踊り（二十三夜）など、各種行事・祭礼日として、民俗的にも重要な行事が営まれています。たとえば、二月九日に「あえのこと」があります。それは、本来八月一日も薬師の縁日です。に仏事を行い、翌日に関係者が一堂に会することから、九日の行事のように考えられています。また、本来八日中心の行事です。

〔北・北東黒〕

北・北東は、中国でいうと冬になると匈奴が襲ってくる方角です。そこで北には万里の長城を築きました。その恐れを受け継ぎ、京都平安京でも鬼門・貝（うしとら）の方角に比叡山、北方を守る寺として、最も強い毘沙門天を本尊とする鞍馬寺を配置しました。そして、鞍馬・比叡山のさらに北の方角には越の白山があり、その先には羽咋の気多、能登島の鉢ヶ崎（八ヶ崎）、

須須神社が存在します。能登国がなぜ早くから独立したかという点、東北との境界地として非常に重要な半島と考えられたからです。もちろん、海の交通要所であることも含まれています。

◇山

三國山は標高三三三・六メートルですが、加賀・能登・越中にもたがる山です。ブナの林がある山で、ここから流れ出ているのが大海川です。これが能登と加賀の境界となっています。

◇海・潟

能登は三方を海に囲まれていますので、天つ神、海女、龍宮、龍灯、小田中の浦島太郎の伝説など、海に関わる様々な風習・伝説・民俗文化が数多く残っています。

◇自然と共にある暮らし

和らかなるをもつて尊し、の教えを守ることができず、争いが起こると、それまで培われてきた伝統や風習、文化などがすべて壊されてしまいます。歴史をひもとくと、それが安定した風習・文化に戻るまでには、約百年の月日が必要でした。「能登は一つ」という言葉がありますが、能登国のすこいところは、この千三百年の間、争いによって国が分割されたことが

◇おわりに

能登の民俗・歴史・文化の一端を断片的に述べてきましたが、能登にはまだまだ知られていない貴重なことが多く眠っています。来年の能登立国千三百年という節目の年を迎え、これを期に能登にもっと関心を寄せてほしいものだと思います。

資料後半の「万葉集」「若山庄」「平家物語」「民話・伝説」等については、お話ができませんが、あとで資料を見ていただいで、何かの参考にしていただければ幸いです。

ご清聴、有り難うございました。

（出雲風土記、厩（かよみ）のことなど、他にもいろいろと興味深いお話をたくさんされましたが、紙面の制約上、いくつかのお話の掲載を割愛させていただきました。）

〔南・海赤〕

南は夏、色は赤です。仏教では観音菩薩の補陀落浄土の世界です。補陀落は南方海上とあって海（湖）と深く関わっています。観音菩薩は、その名が示すように人々の悲しみ・苦悩の声（音）を聞き取って救う慈悲深い仏として、能登でも古くから信仰されてきました。このことが能登国三十三観音巡礼などに繋がります。余談ですが、栃木県の日光は、フタラク（補陀落）を意味する二荒を音読みにして佳字の日光をあてたものです。徳川家康は亡くなった後も、観音の浄土から子孫の地を見守る意志をもって、補陀落に日光の東照宮に祀られたのです。

また、西方浄土、すなわち極楽・安楽国に住む鳥の一つに鵲（こう）がいます。阿弥陀経に、白鵲と出ており、その鵲が住む山と考えられたのが輪島の高洲山（もと鵲巢山）です。身近なところにも理想世界を意識しながら先人は生きてきました。

また、能登で、早い時期に最も重要な山とみなされていたのが宝達山（六三七・一メートル）でした。平国祭（お出で祭り）の一行が気多神社へ帰るときに潜る隨身門の真正面には、宝達山があります。ところが気多のすぐ東にある大己貴像石神社の鳥居の真正面は白山なのです。あまり知られていないことですが、宝達山と白山（観音）の二系列の宗教的展開があったようです。

